



森林の会ニュース

M O R I N O K A I N E W S

地域科学部が変わります。 地域環境講座教授 長谷川典彦

卒業生の皆さんは、お元気にご活躍のことと思います。地域科学部も、この3月に5期生の卒業生を送り出し、卒業生の数も、600人近くになりました。今年の夏には、卒業生の皆さんの主な就職先の企業に、先生方に訪問していただきました。どの企業においても、卒業生の皆さんの評判が良く、皆さんのがんばりが行く先々で感じられ、先生方も喜んでおられます。後に続く後輩のためにも、岐阜大学に地域科学部ありという伝統を皆さんのがんばりが培ってくれているのです。

そして、2006年には、地域科学部創立10周年を迎えます。地域科学部は、新たな発展を目指して、次のように、来年4月から、学部を2学科にする計画が進められています。卒業生の皆さんは、地域科学部が、大きく羽ばたくのを見守ってやってください。

新しい地域科学部をめざして

(学部改組説明資料より)

社会の構造的変化が進み、新たに提起される教育上、研究上の要請がより専門化し、多面的になってきたため、とりわ

け教育上の目的をより具体的にするため、2006年4月から地域科学部は、地域政策学科と地域文化学科の2学科に改組します。

【地域政策学科】

持続可能な循環型社会の創造や環境保全などを視野に入れつつ、地域づくり、まちづくりの創造的プランナーを育成するため、自治体を含む社会(地域)の歴史的・構造的把握とその分析技法や政策形成論の修得とを関連づけて教育研究を行います。

【地域文化学科】

地域社会や地域文化の歴史や伝統を踏まえて、変化の激しい時代の文化・思想と豊かな人間像を展望しうる地方の時代の地域文化の創造的リーダーを育成するため、社会(地域)の構造的把握とグローバルな文化研究とを関連づけて教育研究を行います。

【カリキュラム】

カリキュラムでは、地域科学部のはばの広さと、専門性を組み合わせた特色を

いっそう強く発揮するため、5コースを設け、学生の自主的判断や学習計画を重視し、かつ専門性を深める教育をさらに具体化します。

産業・まちづくり

地域の内発的発展と国民経済・リージョナリズム・グローバル化との実現可能な共存関係を追究するとともに、マクロ的な観点から都市と農村、商工業と金融、大企業と中小企業などの地域経済問題の解決を目指し、地域の経済基盤強化および政策立案の基礎となる専門的能力の育成・涵養を図ります。

自治政策

分権時代の自治体の意思決定システムの見直し、地域計画、福祉政策とそれを支える地方行財政政策など「公共性」の再編の必要性に対応し、住民参加やNPOとの協同など、意思決定・実行のプロセスにおける新たな市民的コミュニケーション関係の構築とそれを促進すべき行政サイドの方策を研究・教育し、新しい自治の担い手を育成します。

環境政策

狭義の自然環境の研究・教育という旧来型スタイルを越え、人間・社会の

持続的発展とセットになった環境の研究・教育を目指す。社会的環境と自然環境とを一体のものと捉え、循環型社会の構築に必要な政策研究と教育にあたり、ユニークかつ総合的性格をもち環境保全に配慮した地域社会・地域産業構造の確立に有為な人材を育成します。

生活・社会

大きく変貌を遂げようとしている地域社会がどのような特性をもったコミュニティとして活力を取り戻していけばいいのか、現在のコミュニティとそれを取り巻く歴史的・文化的制度を含めた総合的・比較的研究を踏まえ、市民諸階層の有効なコミュニケーションの再構築と市民的基礎を有した「まちづくり」を担いうる人材を育成します。

人間・文化

コミュニティは独自の文化を継承・発展させ、常に他の社会や文化に積極的に接触し、相互に啓発し合うことで活力を生み出すという視点にたって、グローバル化の時代に適合的な多様な文化特性の交流を通じた伝統文化の再生と新しい文化創造の可能性を研究・教育し、地域文化の創造的担い手を育成します。

会員だより

卒業されてはや〇年。就職して働いたり、結婚したり子どもを育てたりしておられる方も少なからずいらっしゃるようです。いじは、そんな森の仲間の近況をお届けいたします。今回は、卒業生の皆様に加え、昨年4月より地域科学部に教鞭をとられている野原先生や、平成15年まで学務係としてお世話になり、当時の学生のすてきなお姉さんの存在だった木全さんにも寄稿いただきました。

*岐阜に帰って思うこと

岐阜大学地域科学部助教授 野原 仁

わたしは母の故郷でもある岐阜市に生まれ、7歳からは父の故郷である揖斐郡池田町で高校卒業まで過ごした、根っからの岐阜人です。しかし、中学時代から岐阜の保守的で閉鎖的な体質がイヤでたまらず、高校卒業と同時に東京の大学に進学しました。大学卒業後は名古屋のテレビ局で約6年間にわたって記者兼ディレクターとして日本中をドサ回りしていましたが、メディアの現状に失望したこともあって会社をドロップアウト!京都の大学院に進学し、5年間ジャーナリズムの勉強をしたのち、千葉の某私立大学の講師をしていました。この間、岐阜に戻るなんてことは露にも思いませんでしたが、縁あって岐大にお世話になることになり、昨年4月に赴任するとともに、約20年ぶりに岐阜に帰ってきました。岐阜を離れていた間は、ひたすら自分のことだけを考えていましたが、今は、地元の後輩でもある学生たちに、少しでも自分がこれまで得た知識や経験を役立ててもらえれば、と思っています。保守的で閉鎖的な岐阜の体質は相変わらずの面もありますが、ボランティアをはじめ精力的に活動する学生たちの姿を見て、新しい力も芽生えつつあるというのが、戻ってきての偽らざる感想です。

*「コープぎふ」で働いて

荒瀬修三(2002年度卒業)

私はコープぎふで「共同購入」という部門の配達を担当しています。組合員さんのところへ生協の商品を定曜日にお届けする仕事です。

配達にはトラックを使うので、安全運転が仕事の基本となります。ひとりで運転するようになるまで、みっちり指導を受けました。正直なところ、配達の予定時刻に遅れたりすると、気持ちが焦り、必要な安全確認を怠ってしまうこともあります。ようやく最近、焦ったときの気持ちのコントロールが出来るようになりました。(図太くなった、とも言えます。)

約2年間務めた共同購入の仕事ですが、この10月からは福祉事業部への転属が決まりました。いま、配達の最後の一週間を迎えています。兼ねてから希望していた部署に移るのは嬉しい反面で、お世話になった組合員さんと別れるのは残念でもあります。

思い返すと、自分のおすすめした商品で話が盛り上がったこと、猛暑の日に冷えたお茶をいただいたこと、牛乳を降ろし間違えて後で届け直しをしたことなど、さまざまなことがありました。こうした思い出も励みにして、新しい部署でも頑張っていきたいです。

*地域科学部を卒業して思うこと

清水美帆(2002年度大学院卒業)

私は第1期生として地域科学部大学院を卒業し、建設コンサルタントに就職しました。

それから3年、様々なことを学びましたが、その中でも特に就職前後で印象の異なった点についてお話ししたいと思います。

「仕事は専門分野に限らない」—私は比較的専門分野を活かせる職種に就いていますが、それでも専門のみに携っているわけではありません。

私の専門は(一応)地域経済ですが、就職後は生涯学習や住民参加、文化振興、景観など、多様な分野に関わることになりました。個人的な興味の有無は仕事には関係ないわけです。勿論、「知識を売る職業」ですので、仕事相手よりも詳しくなければならず、勉強が必要になります。これはゼロからだとかかなり大変です。

地域科学部は多様な学問に触れることのできる環境にありますから、学生のうちになるべく多くの知識に触れておくことを、実感を込めて助言したいと思います。

では、最後に自分への戒めと、在学生への鼓舞として、以下の言葉を送ります。

『時間の価値を知れ。あらゆる瞬間をつかまえて享受せよ。今日出来る事を明日まで延ばすな。』

—チェスターフィールド

*地域科学部を卒業して思うこと

石黒好美 (2000年度卒業)

わたしは地域科学部では内田勝先生のゼミで学び、現在は岐阜の印刷会社で営業の仕事をしています。学生時代は、聡明で明るく、元気な友人達との交流に刺激を受けたことや、内田先生の講義をはじめ、林正子先生の熱い文学の講義、哲学の講義、受講生が自分を含め二人しかいなかったロシア語の講義などが特に思い出深いです。

いま、営業パーソンとして業種を問わずいろいろな会社の販促や広告のお手伝いをさせていただいておりますが、本当に地域科学部で学んだ事が自分の血となり肉となり、生きているなあと実感しています。「専門的なこと・まだ多くの人知らないようなことを、わかりやすくみんなに伝える」「異なるジャンル同士の人や企業を結びつけて、新たな価値・ビジネスを生み出す(コラボレーション)」といった仕事をしていくうえで、川で採った魚を解剖しているゼミもあれば英文学のゼミもあり、経済学のゼミの学生と福祉のゼミの学生が討論をする…というような恵まれた環境で育ったことが、思っていた以上に役立っています。

今年度より「森の会」の幹事をお引き受けさせていただけることとなりましたが、卒業生として地域科学部の発展の一助となる活動ができればと思っております。皆さまの本会に対するさらなるご理解とご協力をお願いいたします。

*岐大パンフに載りました

浅野 善信 (2000年度卒業)

先日発行された岐阜大学「パンフレット」。46ページに私が載っています。何の因果か、医学部卒業生の隣に場違いな福祉施設勤務(誤植)の職員が。(編注:浅野さんは本当は地元の社会福祉協議会にお勤めです。)

このお話を頂いてから、在学時の地域科学部のことを思い浮かべてみると...懐かしく思えると同時に、徐々に記憶が薄れていることにも気付かされました。この会報をご覧の皆さんの中にも、きっと「こんな会報あったかな?」と記憶を辿られたり、「地域科学部」の名前を卒業後この会報で初めてご覧になった方もいらっしゃるかと思います。

そんな遠のくイメージと向かい合って原稿を書くことは容易ではないな...と思っていましたが、実際はインタビューされた内容を文書にして頂いたのでなんの苦労もなく...

もしどこかでパンフレットを手にする機会があったら、是非感傷に浸ってみてください。さまざまな場所でご活躍されている皆さんの憩いの時となりますように...

*皆さん、お元気ですか

(医学部管理係 木全加寿子)
(元 地域科学部学務係)

地域科学部の皆さん、お元気ですか。私は平成15年3月まで学務係にいた木全と申します。お久しぶりです。今は医学部管理係で経理業務をしていますが、仕事では学生さんと話すことがないので、学務係の仕事が懐かしいです。

去年、医学部が司町から柳戸に移って、事務室が近くなりました。時々、事務局や図書館に行っています。学内で見かけたら、ぜひ声をかけてくださいね!

2005年度 森の会役員が決定

会 長 / 浅井 彰子①

副会長 / 伊藤 雅浩①、永田 尚子①

幹事長 / 加地 和歌子①

幹 事 / 浅野 善信①、牛田 陽子①、石黒 好美①、

田中 幸恵②、村本 みどり③

会 計 / 大竹 裕美②、荒瀬 修三③

監 査 / 中嶋 英理①、鬼頭 利佳①

①:2000年度卒業 ②:2001年度卒業 ③:2002年度卒業 ※石黒 好美さんが幹事に加わりました。

2003年度会計報告

収入の部	
繰越	6,330,304
会費(10,000円×86人)	860,000
利息	8
2002年度祝う会より寄付	101,284
総会会費(6,000円×38人)	228,000
合計	7,519,596
支出の部	
事業費	360,625
通信費	76,135
事務費	9,797
会議費	17,810
祝い金(2003年度祝う会へ)	50,000
合計	514,367
差引き	7,005,229

会計書類等を監査したところ、適正に執行されている事を認めましたので、報告します。

中嶋 英理  鬼頭 利佳 

2004年 4月1日

2004年度会計報告

収入の部	
繰越	7,005,229
会費(10,000円×85人)	850,000
利息	182
合計	7,855,411
支出の部	
事務費	400
会議費	3,730
祝い金(2004年度祝う会へ)	50,000
合計	54,130
差引き	7,801,281

会計書類等を監査したところ、適正に執行されている事を認めましたので、報告します。

中嶋 英理  鬼頭 利佳 

2005年 4月1日

*地域科学部を卒業して思うこと

石黒好美(2000年度卒業)

わたしは地域科学部では内田勝先生のゼミで学び、現在は岐阜の印刷会社で営業の仕事をしています。学生時代は、聡明で明るく、元気な友人達との交流に刺激を受けたことや、内田先生の講義をはじめ、林正子先生の熱い文学の講義、哲学の講義、受講生が自分を含め二人しかいなかったロシア語の講義などが特に思い出深いです。

いま、営業パーソンとして業種を問わずいろいろな会社の販促や広告のお手伝いをさせていただいておりますが、本当に地域科学部で学んだ事が自分の血となり肉となり、生きているなあと実感しています。「専門的なこと・まだ多くの人知らないようなことを、わかりやすくみんなに伝える」「異なるジャンル同士の人や企業を結びつけて、新たな価値・ビジネスを生み出す(コラボレーション)」といった仕事をしていくうえで、川で採った魚を解剖しているゼミもあれば英文学のゼミもあり、経済学のゼミの学生と福祉のゼミの学生が討論をする…というような恵まれた環境で育ったことが、思っていた以上に役立っています。

今年度より「森の会」の幹事をお引き受けさせていただけることとなりましたが、卒業生として地域科学部の発展の一助となる活動ができればと思っております。皆さまの本会に対するさらなるご理解とご協力をお願いいたします。

*岐大パンフに載りました

浅野 善信(2000年度卒業)

先日発行された岐阜大学「パンフレット」。46ページに私が載っています。何の因果か、医学部卒業生の隣に場違いな福祉施設勤務(誤植)の職員が。(編注:浅野さんは本当は地元の社会福祉協議会にお勤めです。)

このお話を頂いてから、在学時の地域科学部のことを思い浮かべてみると...懐かしく思えると同時に、徐々に記憶が薄れていることにも気付かされました。この会報をご覧の皆さんの中にも、きっと「こんな会報あったかな?」と記憶を辿られたり、「地域科学部」の名前を卒業後この会報で初めてご覧になった方もいらっしゃるかと思います。

そんな遠のくイメージと向かい合って原稿を書くことは容易ではないな...と思っていましたが、実際はインタビューされた内容を文書にして頂いたのでなんの苦勞もなく...

もしどこかでパンフレットを手にする機会があったら、是非感傷に浸ってみてください。さまざまな場所でご活躍されている皆さんの憩いの時となりますように...

*皆さん、お元気ですか

(医学部管理係 木全加寿子)
(元 地域科学部学務係)

地域科学部の皆さん、お元気ですか。私は平成15年3月まで学務係にいた木全と申します。お久しぶりです。今は医学部管理係で経理業務をしていますが、仕事では学生さんと話すことがないので、学務係の仕事が懐かしいです。

去年、医学部が司町から柳戸に移って、事務室が近くなりました。時々、事務局や図書館に行っています。学内で見かけたら、ぜひ声をかけてくださいね!

2005年度 森の会役員が決定

会 長 / 浅井 彰子①

副会長 / 伊藤 雅浩①、永田 尚子①

幹事長 / 加地 和歌子①

幹 事 / 浅野 善信①、牛田 陽子①、石黒 好美①、

田中 幸恵②、村本 みどり③

会 計 / 大竹 裕美②、荒瀬 修三③

監 査 / 中嶋 英理①、鬼頭 利佳①

①:2000年度卒業 ②:2001年度卒業 ③:2002年度卒業 ※石黒 好美さんが幹事に加わりました。